

JR東海労なごや

2025年6月12日 No.1255

JR東海労名古屋地方本部

発行者：松山文成

編集者：教宣部

「問うに落ちず語るに落ちた」

セン労情報 No.25

JR 総連が主導し結成させた JR セントラル労働組合から、過去退会した関連会社組合員に関する情報が発行されました。

これらの事に関して、個人の信頼、名誉等に関することであることから名古屋地方本部として公にするべきではないと考えますが、**余りにも出鱈目、かつ労働者の感性のかけらもない「セン労情報 No.25」**に対し、明確な意思を明らかにします。

私たちは、当時の彼の職場でのハラスメントを行う管理者を放逐し、当該会社のハラスメントに対する考え方を一変させ、社長名にて「ハラスメントは許しません！！」との掲示を出させるまでの運動を創ってきました。また、ハラスメントに苦しむ組合員ではない彼の同僚にも寄り添い、勇気付けるなどの取り組みを行ってきました。

彼は組合退会時に、「無責任ではありますがお許し下さい。短い一年間ではありましたが、本当にお世話になりました。有難う御座いました。」と感謝の意を地本委員長に伝えています。彼のこの言葉は、何もしないとする地本に対する態度とは考えられませんし、私たちも後悔はありませんでした。

過去在籍した組合員の情報をいたずらに公表していくセントラル労働組合の姿勢には疑問を感じざるを得ません。

あえて言うなら、そもそも彼が JR 東海労に加入した当時、地本の執行委員長を務めていたのは誰だろう、JR 東海労を脱退しセン労に加入した O 氏でした。2024 年の定期地本委員会の挨拶で、当時委員長であった O 氏は「彼が東海労に加入したことは、地本組合員が全員で具体的に実践した結果である。」と成果を述べています。その後、O 氏は副委員長（当時）という立場でありながら無責任にも全てほっぽりだし、私たちの問いかけに何ら応えることなく東海労を脱退しセン労に加入しました。まさに、その事の方が反労働者的ではありませんか？

この「セン労情報 No.25」は、セントラル労働組合は JR 東海労を破壊するために結成された組合である事を自らが暴露し、彼らには一切の将来展望や運動がない事を証明する情報であり、哀れな状況であることを露呈したに過ぎない物でしかありません。

まさに、「語るに落ちる」とはこの事です。

これらの事を利用し、JR 東海労を破壊しようとするセントラル労働組合には強く抗議し、2029 年に JR 東海労を解散させようとしてあらゆる妨害を仕掛けてきた JR 総連を許さず、団結を固めより広範な運動を作るために、JR 東海労による労働運動の炎を燃やし続けて行くことを明らかにします。

「語るに落ちる」とは、「問うに落ちず語るに落ちる」ということわざの略で、人が質問されているときは警戒して秘密を守っていても、自分から話すときはうっかり本当のことを口にしてしまう、という意味です。つまり、話の流れで真実を漏らしてしまうことを指します。